

会議の結果

件 名	平成 28 年度第 6 回社会教育委員会議定例会
日 時	平成 29 年 3 月 29 日（水曜日） 午後 2 時～午後 4 時 30 分
場 所	市民総合センター 4 階交流ホール
出席者	○社会教育委員 久保議長、高垣副議長、谷本委員、三宅委員、近藤委員、西川委員、尾崎委員、松場委員、庄司委員、榎本委員、九鬼委員 計 11 名 （欠席）加藤委員 中本委員 ○職員 中村教育長、弓場教育次長 （生涯学習課）杉若課長、北尾生涯学習推進係長、坂本公民館係長、大倉中央公民館主事、竹邊生涯学習指導員、岡本主査 計 8 名

1. 中村教育長あいさつ

年度末となりまして、庁内も学校も人事異動の内示が終わりました。社会教育委員の皆様は、27 年度・28 年度と 2 年間お引き受けいただきました。来年度も若干の交替はあると聞いていますが、多くの方がお残りいただけるということで、非常にありがたいことです。引き続きお願いいたします。今年度は皆様、地域のひとつくりということで懸命に調査等々され、終えられたとのことでした。

合併してから 12 年目になります。私たちの田辺市も少子高齢化が進んでいますが、何も田辺市に限ったことではないわけでありまして。日本全体がそういった流れの中で、都市への一極集中、日本全体でみれば東京への一極集中、各地方でみれば県庁所在地への一極集中、それ以外の自治体ということになりますと、合併の中心地へ集中。私たちは田辺市の活性化というのはどうあるべきか、地域を元気にするというのはどうするべきか、そういうことを行政とともにいろいろな部分で考えているわけですが、なかなか妙案というのを思い浮かべることができない。そういう中で本年度をもって伏菟野小学校も閉校となりました。来年度からは 40 校です。新田辺市ができたときには 53 校でありました。しかし地域には非常に熱い気持ちをもった方がおられるというのは事実であります。そういう皆さんと一緒にしてもう一回地域を盛り上げることができたらと思っていますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。



2. 久保議長あいさつ

年度末押し迫った中、皆様お集まりいただきありがとうございます。早いもので今期、最終の定例会となります。振り返りますと、毎回、自分自身の反省をしているのですが、本当に皆様に支えられて一期一期積み重ねてこられたなという風に思っております。また、今期で替わられる委員さんもおられるということですので、私たち一期でも一緒にさせていただいたということで、本当に仲間だと考えていますので、委員を離れましても、また引き続きご指導とか、情報を交換できる機会とかありましたら、是非交流をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

今回は第 6 回定例会です、今日で 2 年間のまとめを行い、そのまとめを来期に向けていけるように、皆様のお力添えをいただけたらと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

3. 説明事項



これより久保議長が進行を行う。時間設定等の説明を行った後、説明事項に入る。

- ・ (1) 平成 29 年度田辺市教育行政基本方針について、弓場教育次長から説明を行った。
- ・ (2) 平成 29 年度生涯学習課活動方針について、杉若生涯学習課長から説明を行った。
- ・ (3) 平成 29 年 3 月議会の①一般質問について、弓場教育次長から説明を行った。

- ・(3)平成29年3月議会の②平成29年3月補正予算見積について、(4)田辺市社会教育委員の委嘱について、(5)田辺市公民館長の任命について、(6)田辺市生涯学習（人権）推進員の委嘱について、(7)田辺市スポーツ推進委員の委嘱について、杉若生涯学習課長から説明を行った。

4. 報告事項

補足説明なし

【質疑応答】

[九鬼委員]

児童館は旧田辺市内にしかないのですか

[弓場教育次長]

旧田辺市では3館あります。末広・天神・芳養児童センターとあります。

[九鬼委員]

無い地域については、子どもの居場所としての機関はどうなっていますか。旧町村でも同じような内容をやっていたのかどうか。

[杉若生涯学習課長]

子どもの居場所となり得る施設が各地域にあれば良いのではないかという話かと思います。ただ、現実問題としては、その役目を果たすべく活動を各公民館でもしているのですが、拠点となるものをということになれば、職員配置等の問題もありますので、現状では無理かと思っています。

[榎本委員]

大塔では学童保育所と、公民館でやっているふれあいスクールなどを行っています。

[杉若生涯学習課長]

今、榎本委員からも言われたように、学童保育所があるのは旧町村では大塔のみとなります。龍神と大塔はふれあいスクールなどを実施しています。事業については、まずお世話していただける方を見つけまして、月に1回や2回そういう場をもってもらうようにしておりますので、今後、要望があれば検討していきます。それぞれの地域には管内に教育事務所がありますので、そちらが主体で地元の要望を聞いて、それをわれわれも確認して、実施できるかという判定をさせていただきます。いろんな居場所づくりの案は検討していかなければと思っています。

[九鬼委員]

旧田辺市内で実施する事業は多いわけですが、本宮地域とか、中辺路地域とか他の地域でも実施はしていただけないのですか。

[久保議長]

確か龍神の方で、公民館で御坊の高専とタイアップしてものづくり教室のようなものをしていました。公民館の事業の中で、地域の中で子どもを集めてと。大々的なものではないですが。

[谷本委員]

本宮地域でそういう声が多くなれば実施検討となるのでしょうか、一個人となると中々難しいし、本宮にもいろいろな地域があって、地理的なハードルもクリアしないといけないので、町中でやる事業をすぐその地域でできるかというのは事務方においても難しいかもしれない。ただ、そんな声が高まっていけば、いろいろ考えてくれると思います。

[九鬼委員]

本宮地域の人はまちなかで様々な行事をしているということを知っているのでしょうか。

[中村教育長]

全て、地区公民館へご案内は下ろしています。放課後の子どもをどうするかということは、各地で話題になっています。国、県、市の方針としてもできる地域はやっていきたいと思っています。全部、平等に声かけをしています。しかしその中で、まとまるところ、まだのところ、要求の強いところ、弱いところ、バラつきがあります。必要性があるところは地域で声を上げて盛り上げてほしい。

[榎本委員]

地域の人が関わっていないと、公民館職員だけでは無理。公民館と学校と地域の3者が連携して考えていかないと。

[久保議長]

地域から声をあげるとともに、地域の声を吸い上げるということも公民館としては必要と思うんですが、なかなか現状としては吸い上げきれない部分もあると思います。もどかしい部分ではありますが。

地域の声を吸い上げる力をつけていかないとしんどいのかなと。どうしても地域によって、ばらつきは出てくるので。次の私たちの課題にしませんか。

[中村教育長]

事務局の方も、本宮でいかにして立ちあげるのか、本宮で本当に必要がないのか、という論議を随分しています。良い方法があれば直接言ってもらえれば。それも一人の声ではなく地域の声として言っていたければ立ち上げやすいと思います。

[九鬼委員]

みんなおとなしいので、何も言わない人が多い。現状維持をよしとする人が多いと思う。

[松場委員]

以前の社会教育委員会議のまとめにある「減点ではなく、加点で見る。やらないのか、やれないのか、やる気がないのかを見極めていくことも重要。」を来年度の課題にさせてもらいましょう。

[久保議長]

そういうところもこういう会の中で協議していつて次の課題として残していきたい。やることによって継続するという負担も出てきますので、併せて考えていかないといけないですね。

<中村教育長退席>

5. 協議

①第1次田辺市生涯学習推進計画の評価と検証について、杉若生涯学習課長から説明を行った。

【質疑応答】

質疑応答なし。



②第2次田辺市生涯学習推進計画の策定に向けた進め方(案)について、北尾生涯学習推進係長から説明を行った。

【質疑応答】

[近藤委員]

人材育成講座の地域の未来を予測する集いについては、回数などは決まっていますか。

[北尾係長]

今の段階ではまだ回数や場所は決まっていません。できる範囲で、予算等もありますので、やっていきたいと思っております。

[榎本委員]

地域をつくる生涯学習推進会議は何人ぐらいおられますか。教育委員会だけではなく、首長部局からもということになっていますが、

[北尾係長]

メンバーは30名おります。首長部局でいうと、企画広報課、自治振興課、山村林業課、健康増進課なども入っております。

[榎本委員]

市全体でしましょうということですね。

[近藤委員]

各部局と調整するための会議を開催すると以前は言われていたと思いますが、今回は開かれなかったよ

うです。平成 28 年度は開催されていますか。それぞれの部局との連携とのことであったと思うのですが。

[北尾係長]

平成 28 年度は開催できていません。

[榎本委員]

事務局は生涯学習課ですが、首長部局についても参画してもらいたい。

[久保議長]

流れとか趣旨とかよろしいでしょうか。多分これから進めていくにあたり、都度都度で詰めていくと思うのですが、話をしながら、良い計画ができたかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

③今期の振り返りについて、岡本主査、及び西川委員から説明を行った。

その後、意見交換を行った。

【意見交換】

[久保議長]

社会教育委員会会議を合併してから何期か続けてきてはいるのですが、大分雰囲気も変わったり、人が代わったり、また事務局が代わったりということで、それについてはまた後ほどお話いただけると思うのですが。今までやってきたなかでこの平成 27 年度・28 年度の 2 年間について、いろいろご意見をいただきました。また、その中で、やはり西川先生が言われたとおり、社会教育委員会会議は、事務局と委員との両輪がしっかりしてこそ成り立つものだというのが根底にあり、そういう風に進めてきたと思います。他にもっとこんなことを言っておきたかったとか、とくにないでしょうか。私は本当に、意識的に委員みんなが良い方向を向いていただいているというか、同じ方向を向いているようにしていただいたなという、感謝の言葉ひとつしかないのですが。

[庄司委員]

まとめの中で、「出来ている」を顕彰し、「出来ない」を検証するというのを書かせてもらいました。できていることもたくさんあると思うのです。提案して進めていることを積極的に果敢に取り組んでやれているところも。そしたらできていることがいっぱいあるな、で終わらないで、それを皆に広めていくための顕彰、発表の場を設定し、できていなくて悩んでいるところはそこから学ぶということが考えられると思う。できているところはほめて応援をしていく必要があると思う。一方出来ないところには何か原因があると思うんです。また、「出来ない」を「やってみよう」、「できる」にするというのも書かせてもらったんですが、やはりできないはできるに変えないといけないと思うんです。じゃあなぜできないのかということ进行分析・検証しないといけない。やっぱり、やりたいんやけど、お金がないからできないとか、経済的な問題、それからやりたいけどやったことが分からないというノウハウの問題もあるし、それから…5 つぐらいあると思う。今はできないけど、できる時期になればやりたいという、そういう時期尚早的な問題もある。最悪はやる気がないからという。やる気があればできるのに、なぜほったらかしにしとくんよ、といった。やっぱり、それぞれの部署で、できている・できていないを、よりよくしていくためには検証して磨きをかけていく、お互いに学びあう。それが大事だと私は今回のまとめとして思います。

最後に、もうひとつ、自分たちは堀内先生にはお世話になったが、その堀内先生が提案している地域づくりの 4 目標というものを学んで、これはすごく良い目標だと思うし、その目標に照らし合わせた時に、じゃあ、田辺市はどうなんかな、という風に見ていかないといけないと思うんですが、ただ、漠然とこうだろうとデータの、またはアンケートなどで気持ち的に出てくる調査があるのかなと思うんですが、堀内先生はこの 4 つの目標を提示しリードしてくれているので、そうですかで終わらずに活かしていけないかなと。住民のすべてが安心安全を実感できることが大事ですと堀内先生は言ってくれている。実際そういう風に田辺市が隅々見渡したときになっているんですかと。なってないとしたらやっぱり改善していかないと。心豊かに人間らしく暮らしているかということが、やっぱり過疎化とか、高齢化とか、諸々のことによって、それだけではないと思うけれど、心豊かでない人がいっぱいいるのかなと。それは処置なしと考えるのか、手立てがあるのにできんと置いていると考えるのか。住むからには住んで良かったと思える町に、それが将来的に継続できていくという、そういう田辺であるのかという。最後は西川先生に教えてほしいところで、堀内先生の言われていたことをそのまま書き出したのですが、分かったような分から

ないようなところで。「ソフト、ハート、ハードの統合」。よくソフトとハードの充実と言いますが、堀内先生はそれにプラスハートを設定して、大きく捉えてくれているんだなと。それについて、田辺市に住んでいる人はどういう風に思っているのかと。たとえば公民館単位でもアンケートでもとって把握してデータでも取れたら、どこが弱いのかというのが分かるような気がするのですが。

[西川委員]

田辺市にとってではなく、一般的にということですよ。

[久保議長]

ハードソフトというのは、与えられるものではなく、自分達が動くその気持ちというところを突いているのかなといううっすら感覚はあるのですが。

[榎本委員]

最終的には人間と人間の心の通い合いということでは？ ハートというのは人と人とのつながり。

[三宅議員]

このコンピューター時代で、コンピューターにハートを足さないと。いくら人工知能というのがあっても、それだけじゃなくて。

[榎本委員]

スマホで個々はつながっているのかもしれないが、面と向かって会話するというのが少なくなっている。

[松場委員]

路線バスでいうと、ハードは路線バスがあるかないか。ソフトはそれに代わるものがあるかないか。ハートは一体なにが動機付けになっているのか。お金がもったいないから、タクシーを運行するようにしようかなのか、困っている人がいるから助けたいと思うのか、というのもあるので、一つの事象に対しての、ハード・ソフト・ハートの位置付けは、とくにハートは動機付けという風に捉えました。バスの運行だけ見れば。公民館の事業にしても、公民館の施設がないと、場所の提供がないと難しい。ソフトの面でいうと、中で運営する人がどういった運営をしていくのか。ハートはどういう地域づくりを目指しているのか、何を目指していくのか。ミッションをどこに置くか。ということじゃないかと。一つひとつについて、この件に関して、ハードはこれ、ソフトはこれというように別のものが挙げられてくるような気はしますね。間違っているかも知れませんが、私はそういう捉え方をしました。

[庄司委員]

堀内先生のこの話については2月12日に県の社会教育の研修会をBig Uでやったのですが、多分その時に話をされたのかな。すごく大事なものに感じて、メモをしました。

[谷本委員]

学校でいうと、ハードは学校の建物。ソフトは教え方。ハートは先生らの熱意。

[西川委員]

3つすべて必要で、どれか一つでも欠けたらいけないというような。バリアフリーでもそう。ハードだけが良くても、それを支えようというボランティアスタッフがないと、あればソフトになるし、しかしそこだけに頼ってもいかんと。ハードソフトがあったとしても、一人ひとりの市民が、助けようと思わないと。

[庄司委員]

堀内先生はシチズンシップということを強調されていて、2月12日の時のメモを見たら、西川先生の話のメモで、「学びは人を謙虚にするか、傲慢にするか」と書いていました。

これもすごくインパクトがあると思いました。

[松場委員]

シチズンシップ教育というのは、これからの時代大切にしていけないといけない。

[三宅委員]

公民館で、人材バンクなどいろいろ活発にされているところがあるのですが、地域を巻き込むのではなく、人材バンクの関係の、その方たちのみだけでされていて、それ以上広がらないというか。例えばお祭りがあって、企画したとして、そこに参加する人はたくさん呼べるけど、企画するのに結局メンバーが変わらないとか、その方たちだけで企画してしまうとか、そういうのを少し感じる時があって。公民館の役

員だけで企画するのではなく、地域の方に声をかけてみるとか、今度この違う人を呼んでみようよ、とかではなく、そのメンバーだけで決めて、その方たちだけの意思というか。学校との関わりもたくさんされているのだけれど、結局そのボランティアの方が学校に入り込んで、毎日学校に行かれていて、一職員の一人というような感覚になって、一所懸命がんばっておられるのですが、広がりがない。大きな学校などではありがちで、広がりが少なくなる。小さな学校ではみんな参加しなくてはいけないですけど、大きいところでは、あるメンバーだけで、慢性化というのかそういうのを時々感じる事があって。そうじゃなくて、本当の意味で、公民館中心で地域を巻き込むというのが、例えば学校の評議員さんでもそうですけど、メンバーを替えていくとか。同じ方が同じようになると、それ以上の声が聞けないというのが。エリアが広いのに、狭い範囲であまり巻き込めてない。ただ面白いイベントとなるとたくさん集まりましたよ、というような結果にはなるんですけど。でも普段から関わりがあるのが生涯学習じゃないのかなと、そういう気は時々大規模校では感じる場合があります。

[久保議長]

確かに、何かするにしても、いろいろお話を聞きながら、そのハートの部分なんですけど、事業にしても継続すると、先ほど三宅さん言われたように同じメンバーがやっているっていうようになってくる。そうしたらだんだんしんどい思いするのは自分らだけや、というような感覚になってきている、そういう団体があるんですね。

龍神の地域の中でも昇龍祭やなんかあって、いろいろ継続事業あるんですけど、結局そうなってくると、事業をしていて自分らが楽しくない。そうなってくると、継続が難しくなってくるんやろなど。何かのときに尾崎さんがいろいろな団体の事務局をしているという話をしたときに、団体の中で一人だけに負担がかかってきたり、一部だけに負担がかかってくるというような話を聞きました。でも確かにそうだと思います。やっぱりちらほら聞こえてきます。

[三宅委員]

逆に大きなところでは、やりたい人たちがいて、結局その人たちが牛耳ってしまうということもあります。

[庄司委員]

壁やバリアを打ち破っていくのは、若者、よそ者、ばか者というのを聞いた。その中で、よそ者につながることを経験しました。依頼を受けて、取り壊しの前の大坊小学校に一ヶ月行ったんです。その時に、その場所をまったくのよその目で見ました。全く初めていくところで。そうするといっぱい見える。それはというと、もう取り壊す学校だから我慢している。例えば建具の建て付けの悪いところで、足でけったりしながら毎日開けたり締めたりしている。引き上げてみたらコマが取れていた。コマを取り付けたらさっと動くようになった。でもそのちょっとしたことでも、毎日の忙しさとかいろいろなことがあってするのは無理だったのだと思う。そのようなことを30項目ぐらい見つけて全部対処したんですが、たとえば鍬や鎌の柄がだめになっていて、振ったら飛んでいくような状態でも使っていたのを、全部固定していった。教師としてではなく、主事の代行として行ったんです。でも事務職はできないので、用務員の仕事に一ヶ月専念していました。授業もしながらですが。しかし、そうやって一個一個改善していったら、ものすごく喜ばれたんです。結局あと半年ほどしたら取り壊してしまうからというので、お金もかけられない。でも3月で卒業してしまう子どもにしてみれば、そこでの生活というのは絶対です。建て替えるんだから、と我慢されたらその卒業する子どもの権利は失われる。小さな学校の例ですが、もっと広く社会教育的に見れば、やっぱりよそ者の目というのはもっとするのだらうなと思う。

[久保議長]

すごく分かるところで、田舎ならではのそれが生かされないというもどかしさも非常にあると思うんですけど。土台ができれば強いですね。

2年間の振り返りでこんなに出していただいて、これについて協議しましょうとなったら多分1年2年、基礎からの題材かなと思うんですが、やっぱり振り返りの大切さというのがこの会議をしていて常日頃思うんですけど、やっぱりするだけではだめで、検証するというのが必要なんでしょうね。

[近藤委員]

今の話題ではないのですが、質問です。計画策定にかかる体制と流れのところの社会教育委員会議の項

目で、計画素案検討委員とありますよね。それは社会教育委員全員なのか、また別に選出するということなのですか。

[北尾係長]

委員全員というのもひとつの方法だと思うのですが、大きくなると意見が出にくいというのもありますので、少し絞った形で検討し、ご助言いただく人がいていただけるとありがたいと思います。

[近藤委員]

生涯学習課が行った講座などを通して、他の課が「これはやらんとあかん」という事業が出てきた、というケースは今まであるのでしょうか。

[岡本主査]

人材育成講座など生涯学習課で行ったなかから、生まれた他の課の事業ということですね。知る限りでは他の課でということではないのですが、各地域ではそれぞれ活動いただいているとのこと。もちろん近藤さんの様々な活動もそうでありますし。ただ、行政的にはないのではないのでしょうか。

[西川委員]

でもまちづくり市民カレッジの防災なんかはそうじゃないでしょうか。ここで企画していたところ、東日本大震災や紀伊半島水害が起きたので、中身をどんどん変えて、ああいうテーマにしていきたいと思います。どんどん変えていって。それが防災まちづくり課の何かの事業につながったかというところではないと思うんですけど、ただ首長部局の課題に対して先んじて社会教育がアプローチしたというのは一ついえることであるし、公民館係からそういう報告ももらっています。

[岡本主査]

今おっしゃっていただいたように、講座のあとで何かというのは聞いてないんですけど、その講座について、例えば防災まちづくり課に協力を依頼したりとか、産業に関しては山村林業課にお願いしたりだとか、そういった連携はしながら講座をしたというのはいくつかケースはございます。

[近藤委員]

私が書かせてもらったのは、自分自身なのですが、地域の課題を学び、事例から何か事業が生まれないかという視点をもつのが大事なと今回思いました。

[西川委員]

最後に。庄司委員の「できているを顕彰する」という話から言いますと、これは私の宿題というか、この間飯田市の木下さんの研修の際、中部公民館で議論したんです。その結果は第5回の結果として皆様もっておられると思うのですが、その中で改めて気付いたこととして、田辺市の社会教育事業とか、取り組みでやっていることというのは山ほどあると思うんです。できていることはできていると我々も思わないといけないし、外部である我々もそういう風に生涯学習としてはやらないといけない立場なんだろうと改めて認識しました。それは何かというと、田辺市の課題に先んじて、社会教育、人づくりの立場からアプローチしている事例というのは山ほどある。もう一回見つけ直さないといけないし、そういうことをできますということを言わないといけない。

もうひとつが、飯田市は地域人教育をやっていますよね。公民館事業に高校生いっぱい入ってもらって、高校も地域人教育の拠点となっているので、そういうところで学んだ学生は飯田が好きになって帰ってくると。人口減少時代の中で人材が回り回って帰ってくる。それで田辺ができてないのかといえば、田辺もできているところはいっぱいあると思うんです。それが学社融合の成果であったり、もう少し話を広げていけば、3年ほど前にセミナーで登壇していただいたイズミさん。熊野高校のサポーターズをやって、彼女はそういう活動をして、今度彼女は白浜の保育士になるんですよね。今のリーダーのヒカリさんは、上富田町の生涯学習課の臨時職員になるんです。帰ってくる人は帰ってくるし、そういうまなざしをもっていたということです。となると、次にやるべきことは、今田辺でできていることというのはいっぱいあるんです。それを再評価するのもそうだし、もうひとつは高校生コミットをどうするか。現役世代は幅広すぎるので、ちょっとつかみにくいと思うんですけども、高校との接点というところは何かキーになるのかなと。学社融合のある意味仕組みになったものであるきのくにコミュニティスクールの仕組みづくりのキーは高校が入る。今までは小・中メインだったんですけど、モデルは熊野高校になっているんです。学社融合という財産がある田辺市であれば田辺市の高校六校ともできるだろうし。田辺高校も、大学進学

だけではなく、今はグローバルアソシエートといって、グローバルに戦える人材になるにはローカルのことも知っておかないといけないという意識が高くなっている。今は各高校で色を出しているんな取り組みをしていて、そこはものすごくチャンスかなと思っている。既存事業もちろん大事だけど、社会教育は教育事業。教育者としてみたときの喜びは人が育つこと。そこに資源を投入してほしい。もちろん既存の事業も大事だが、未来への投資を作りたい。

[尾崎委員]

神島高校のビジネスプランコンテストの発表を聞きに行ったが、地域の課題を探して、それを解決する方法というので、また単に解決するだけでなく、どうビジネスにつなげていくか、という目線でお金の回り方とか人の流れとか、働く人がなかったらIターンで人を連れてきてやってもらおうよ、というようなことを考えていました。そこらはもっと注目されたら良いかなと思いました。もう一校そういうことをしている学校が近くにあったら、競争して面白くなる。熊野高校がいろいろ地域活動しているけれども、ビジネスの方にはいってないようなので。田辺高校もだが、競うようになってくれたらと思う。神島高校の発表の時に、一番大事なのは、生徒が帰ってくることという話はさせてもらいました。その生徒たちは地域の課題を探すときに地域の良さも感じたと思うんですけど。いい先生方がいらっしゃるんで、指導者によるところも大きいと思うんですが。

[竹邊生涯学習指導員]

高校とつなぐということをおっしゃられて、私もそれはしていきたいと思うのですが、それ以外で挙げたいのですが、大塔地域では中学生がコミュニティで学んでいく中で、地域の課題を探していたら、地域の若者がみんな仕事で旧田辺市内の方へきています。大塔地域でもし火事が起こったら、火を消すのは僕ら中学生でもできるんじゃないかということで、消防署と連携して消火栓の開け方を学んだんです。その他にも防災まちづくり課とタイアップして地域の自主防災会と一緒に防災についての学習会を地域の方々と話し合いをするという取り組みをしたと。そういった中で、この間実は下附で火事があったときに、いち早く中学生がその火事の場所へ駆けつけて、地域の方も来て、消防団が一番遅かったと。初期消火活動に大活躍したということをこの間の共育コミュニティの最後の会のときに聞かせてもらったんです。だからやっぱりそういった活動をすることによって中学生でも地域で活躍できる自分たちの住んでいるところはいったい何が課題なのか、それを解決していくためには何が自分たちにできることは何だろうとかというようなことを学ばせていくというのはすごく大事なことだろうと思って、これからもそういうことを含めた学社融合やコミュニティスクールといったことを進めていかなくてはならないと強く感じましたので、ここでこういうこともあるよ、ということで紹介させていただきました。

[近藤委員]

私も今後必要なこととして、若い人を取り込める取り組みということで書かせてもらったんですけど、やはり今すごく高校生ががんばっている。熊野高校も田辺の人でも大勢行っているだろうし、この間も梅フォーラムのとき、神島高校の二人が発表したりと、すごくがんばっているんで、やはりその人たちにもう一回田辺ってこんないいところがあるよ、っていうところを見てほしいし、これからの田辺も考えてほしいし、だから今後若い人を取り込んでいく講座というのは今後企画できたらと思います。

[西川委員]

私は行ってないですが、ある学部の先生がその発表を見て、大学が地域連携教育ということでいろんな学者を連れてきたり、今度も経済学部の入学生が地域でお世話になるんですが…高校生のレベルがはるかに高すぎて、大学生がこんなことやってられないなとあらためて跳ね返りを得たと。それぐらい発表が良かったとのことです。

[久保議長]

次につながるような話になりましたね。

[谷本委員]

ただ、高校でそのような取り組みはしていただいたら良いと思いますが、ただそういった取り組みをした高校生が田辺にいかに残れるかが、一番課題だと思う。やはり職場がない。皆が起業家になれるわけがないので、どこか受け入れてくれるところがあれば良いと思う。市役所でいえば経済や企画の部署の話になると思うが、大きな受入れ先というのが今までない。梅産業がもう少しなんとかあったら良いと思うが、

今はなかなかうまくいっていないようなので、大人が発想を変えて、若者が残れる地域に。若者が残れるようになったら、いろんなグループもできるだろうし、サークルももっと積極的になるだろうし、いろんな地域の中でも地域づくりに参加してくれるかなというのが一点と、あと高校の話が出ましたが、田辺高校はこの地域の中で大学進学実績を担わせられている。世間の人の声があり、それが命題になっているので、田辺高校の先生方の考えを変えるのはなかなか難しい。ただ、良い大学を出たから幸せになるわけではない。良い大学に入ることが目標ではない。田辺高校もキャリア教育ということで、職業教育もしており、一回自分がどんな大人になってどんな仕事をするのかということを考えさせている。大学は大人になるためのひとつの手段であり、大人になったときにどんな姿になるかというのが大事だということ。世間もそこに目を向けてほしい。

[榎本委員]

谷本先生が言われたように、働く場所が課題ということは前々から言われている。和歌山市は街のにぎわいを取り戻すために大学を誘致している。田辺でも考えてもらえればと思う。市長は、人口減少は仕方ないが、観光など交流人口で賑わいを取り戻したいと、そういうことを言われている。私はそれに関して文里港を大型客船が接岸できるように港の整備をするよう、国に働きかけてはどうかという考えがある。震災のときも自衛隊の艦船もここに接岸して救援物資を搬送したり、あるいは傷病者の手当をしたりということもできると思うので。夢ですが。あと、市街地が、緑が少ないと思うので、街路樹を増やすなどして、散歩したくなるような魅力あるまちにしてほしいという希望です。

6. その他

○退任する3名の委員のうち谷本委員・榎本委員からあいさつを行った。中本委員は欠席のため、事務局よりメッセージを披露した。



○杉若生涯学習課長から生涯学習課4月人事異動の内容を報告した。

○人事異動で契約課に異動する岡本主査から挨拶を行った。

○事務局から今後のスケジュールなどの事務連絡を行った。



7. 閉会

高垣副議長から閉会の挨拶を行った。

今日もお疲れさまでした。今ご挨拶いただきました3名の方、本当にありがとうございました。お世話になりました。私が社会教育委員になったときに、第一次の後期生涯学習推進計画の件で忙しく大変だったことを思い出しました。この一年、新しい職員さん、委員さんを迎えてしっかりしたものをまた作りあげていけたらと思いますので、みなさんでまた協力しながらいきたいと思います。よろしくお願いします。